

2015年8月24日

東京電力株式会社
取締役会長 数土 文夫 殿

原子力改革監視委員会

原子力安全改革プランの進捗等に関する監視結果について ～原子力改革監視委員会から東京電力取締役会への答申～

当委員会は、本日開催された第9回原子力改革監視委員会において、東京電力から原子力安全改革の進捗等について報告を受けた。

前回の委員会以降、東京電力の経営層・原子力幹部および管理職から担当者まで各階層の取り組みが機能してきており、東京電力の原子力安全改革は着実に進捗している。

福島第一

- 福島第一では、タンクに貯留していた高濃度汚染水の浄化完了、海側海水配管トレンチに滞留していた高濃度汚染水の除去完了など汚染水対策に大きな前進が見られた。また、原子炉の安定化への取り組みも進捗し、現場はこれまでの緊急的な対応から廃炉作業の本格化という新しい段階へ移行する状況にある。
- 汚染水対策という社会への約束を着実に果たし、正確な情報を公表している取り組みは、原子力安全改革が確実に浸透してきている結果であると評価できる。
- 先般のK排水路情報公開問題を踏まえた情報公開・コミュニケーションの改善については、福島第一で測定した全ての放射線データを公開し、様々なステークホルダーの意見を聞きながら、改善を重ねているとともに、当委員会が設置した情報公開分科会の調査・検証結果も踏まえ、社内関係部門の責任所掌の明確化や連携強化への強い決意も確認することができた。
- その中で発生した重篤な人身災害に対して、東京電力の経営層・原子力幹部は非常に重く受け止めているが、福島第一の現場が安全確保策を改めて徹底することを求める。

柏崎刈羽

- 東京電力は、柏崎刈羽における原子力安全文化の定着度合いや組織運営・マネジメントについて、自己評価だけでなく、IAEAなどの第三者レビューを受けている。その結果、IAEAから高い評価を受けるとともに、指摘事項に対しても直ちに対応を開始していると報告を受けた。
- 当委員会は、東京電力に対して、2011年3月11日の福島原子力事故以降、取

り組んできた事項を総括し、改めて確認するとともに、その結果について次回委員会に報告することを求める。なお、当委員会としても柏崎刈羽における取組状況を直接確認するため、11月に現場を視察することとしたい。

原子力安全文化

- 東京電力の経営層・原子力幹部は、原子力安全に関する期待事項をイントラネットや書面での安全情報の配布等で発信するだけでなく、発電所の管理職から担当者、協力会社との直接対話を実施し、組織内の安全意識を高めていることは評価できる。
- 柏崎刈羽においては、緊急時対応の訓練が積み重ねられ、その経験が技術的能力の向上や日常業務の改善につながっている。
- 一方で、福島第一において人身災害が継続的に発生している状況を踏まえると、東京電力のみならず協力企業も含めた関係者全員の安全意識を高めることが重要である。東京電力と協力企業が一体となって、現場の災害事例やヒヤリハットを収集・分析する仕組みを早急に構築し、再発防止に取り組むことを期待する。

以上